

【解答】

設問A

- (1) **A** - 中国 **B** - スペイン **C** - インドネシア
- (2) 職を求めるヒスパニックの若年労働移民が多く、また、カトリック信仰を背景に多産の傾向にあり、出生数が減少しないため。(57字)
- (3) 農村から都市への人口移動が見られる高度経済成長期が日本より遅れていたため、都市住民の高齢化が日本より進んでいないため。(59字)

設問B

- (1) **A** - 大牟田 **B** - 室蘭 **C** - 新居浜
D - 日立 **E** - 豊田
- (2) **A** - 化学 **B** - 製鉄 **C** - 電気機械
D - 自動車
- (3) 円高を背景に企業の海外進出が進み、人口が流出したため。(27字)
- (4) 都市の景気が一つの基幹産業に左右される危うい体制を脱し、かつ新たな雇用を増やすために経済の多角化を進めているため。(57字)

【解説】

ついに『半沢直樹』の放映が終わりましたね。最初は『あまちゃん』にはまっていましたが、段々雑誌やネットで話題に出ていた『半沢直樹』が面白そうなことに気付いて、途中から見始めました。どんなに無理難題をふっかけられても、その都度不屈の闘志で活路を見出し、見事に改善していく姿はさすがしく、そして勇ましいものでありました。一つのみすで片道切符の島流し(出向)にされたり、精神的な病をかかえてしまったり、裏切りなどの泥臭い現実を突きつけられながらも、それでいて素直に受け止めることができたドラマでした。ラスト7分の、大和田常務に半沢直樹が土下座を迫るシーンは、何度見ても飽きない素晴らしい演技だったと思います。私が人生で1回だけ土下座したシーンを思い出しながら見ていました。私の場合は、「土下座したらジャンプ読ませてあげる」って言われて、深々と土下座

をただけでしたけどね(笑)。みなさんも、受験の困難に負けず、今を戦ってってください。模試でD判定とかE判定とか出されても、「やられたらやり返す、倍返しだ！」という気持ちで本番合格を勝ち取りましょう！

設問A

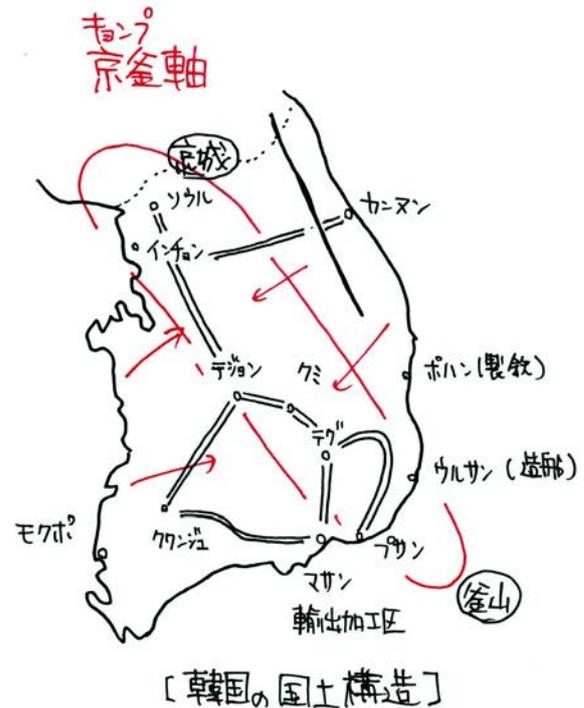
- (1) この人口ピラミッドは、男性と女性の割合を年齢ごとに描いた一般的なものではないですね。ここから注目しなければなりません。都市と農村を年齢ごとに描いたものです。でも、そんなに大きな変化はありませんから、見慣れた人口ピラミッドの知識をベースにして解いていくことにします。
Bは最も高齢化率が進んでいるので、先進国のスペインと考えられます。次に**A**と**C**の判断に行きますと、**A**は幼年率が低くなっていることが分かります。ここで思い出される地理の知識がありますよねー。そう、中国の一人っ子政策です。一人っ子政策実施以降、中国の出生率は見事に下がってきましたので、**A**は中国と考えられます。残った**C**がインドネシアになります。このへんは満点で切り抜きたいところでしょう。
- (2) この問題はちょっと難しかったんじゃないですか？「30～44歳の年齢階層と、その子の世代である0～14歳の年齢階層の間にほとんど差がみられない」と読んだときに、すぐには何がポイントなのかが分かりづらいですからね。ゆっくり他の都市－農村ピラミッドを見ると、スペイン・韓国・中国はどんどん幼年率が下がっていることが分かります。少子化が進んでいるわけですよ。でも、アメリカに関しては、0～14歳の年齢階層が分厚く残っています。つまり、この問題は「アメリカは先進国であるが、他の国に比べて少子化が進んでいない。この理由は何でしょうか？」という問題に置き換えて考えることができます。そうすると、「ヒスパニックの流入(社会増加)+カトリック信仰により多産(自然増加)」というアメリカの人

口増加率が高い一般的な理由に持っていきことができました。ちょっと難しい問い方をしてきていても、他の図などを参考にし、落ち着いて考えられれば解き方の糸口は見つかるものですよ。本番でも粘り強く戦ってください。

- (3) 韓国と高齢化の問題です。韓国はNIEsに含まれるほどの経済大国ですが、日本と比肩すると、まだ経済水準は低い感じがします。ですので、日本よりも少子高齢化がまだ進んでいないのは当然のように思えます。今回は、高齢化が進んでいない理由を「都市」に限定して出題してきました。これも(2)と同様、一瞬「ん？」って思うような問題ですね。韓国の国土構造を見てから問題を解いていくことにしましょう。

韓国の国土構造はいびつです。首都のソウルは北西の端っこにあり、鉄鋼・造船が盛んなポハンやウルサンは南東部にあるので、人口集中地域と工業地域が分散されています。日本に置き換えると、「北海道に人口が集中しているのに、沖縄県で工業が盛んで、本州は見る影もない」的な状況だったわけです。とても残念ですよー。ということで、韓国は国土の中央部分も活発化させるべく、ソウルとプサンの間に高速道路を通すことにしました(ソウルは漢字では京城、プサンは漢字で釜山と示すので、この高速道路沿いの工業発展の軸はキョンプ軸(京釜軸)とも呼ばれています)。この高速道路建設時期に合わせて韓国では高度経済成長期を迎え、貧しい農村住民が高速道路沿いの都市に移住する波が生まれました。日本も、高度経済成長期に三大都市圏や太平洋ベルトに農村人口が移動しましたよね。大体韓国の問題が出題されたときは、日本で起こった事柄を数年タイムスリップして考えればうまくいくことが多いです。こうして、韓国では1970年代から80年代にかけて、農村から都市部へ人口移動が見られたわけですが、この時に流入した年齢を20代~30代で考えましょう。すると、2010年ぐらいになったら何歳にな

るかと言えば、60歳から70歳ですね。日本の場合は80歳以上も結構多くいますので、やはり10年分ぐらい高齢化も遅れているようです。



設問 B

かなり難しい問題が出題されました。毎年1問は日本がらみの問題が出題されていたとは言え、ここまで日本地誌を扱ってきたこともなかったと思います。中学受験時に日本地誌をしっかり叩き込まれていた受験生は都市名や産業名を全部合わすことができたかもしれませんね。

- (1) (2) (3) 丁寧に文章を読みながら、都市名と産業名を決めて行きましょう。

「A市は、第2次世界大戦前に石炭を原料とした(ア)工業都市として栄えた」という記述から、A市では重工業が発展したと考えられます。きっと製鉄業か化学工業かと言ったところでしょう。ただ、次の「原油が工業原料として使われるようになる」という記述から化学工業じゃないかなーとは思いますが。まあ、決定はせずに次の文章

に進みます。

「B市も戦前から国内資源に依存して(イ)工業とともに成長」という記述から、やはりB市も重工業ベースな予感がします。製鉄業か化学工業か…。また、気になる記述がありますね。「大市場から遠いB市」という記述です。ここで選択肢の都市の県名を考えると、大牟田は福岡県、豊田は愛知県、新居浜は愛媛県、日立は茨城県、室蘭は北海道です。大市場が東京・大阪・愛知と考えると、「大市場から遠い」というキーワードは福岡の大牟田か北海道の室蘭な気がします。じわじわ都市名が絞られてきた感じですね。

「C市は、近くの銅山を発祥とする企業が立地する企業城下町」という記述は難しいですねー。有名な銅山としては足尾銅山、日立銅山、別子銅山(新居浜の近く)などがあります。だから、C市は日立か新居浜の可能性がありますが。次に決定的な記述が出てきます。「戦後に新設された(ア)工業プラントでの生産が盛んであったが、オイルショック後の1980年代に、京葉地区の工場に大量生産品の生産が移転するなかで、人口も減少してきている」とあります。京葉工業地域と言ったら、石油化学産業のメッカです。だから、(ア)工業は化学工業だと判定できます。すると、B市の話をしたときに、B市の(イ)工業は製鉄か化学かという話になっていたと思いますから、(イ)が製鉄業だと判定できます。やっと2つ決まりましたね！

「D市も、当初は銅山で栄えていたが、」から、D市は日立か新居浜の可能性がありますが。「1985年～90年の時期に人口減少が始まっている」という記述もかなりの情報をくれています。(3)の設問にも関係していますが、基本的に、1985年のプラザ合意以降、円高を背景に労働集約型の産業(電気機械など)は海外へ移転して行って、産業の空洞化を招きました。この影響を受けて、D市の人口が減少していったと考えれば、(ウ)工業が電気

機械工業で、D市は日立市と考えられます。すると、C市は日立市の選択肢が消えたので必然的に新居浜市になります。

最後のE市は簡単だったと思います。「この50年間を通じて、一貫して人口が増加しているE市には、日本を代表する(エ)工業の本社と主力工場が立地している」という記述から、日本を代表とする工業として自動車工業を考え、自動車工業のメッカである豊田市を想起することはできたでしょう。

残ったB市を考えると、大市場から離れている製鉄業都市ということになるので、北海道の室蘭が最適でしょう。結局、A市が大牟田市になります。

- (4) 豊田市が工業の業種の幅を広げようとしている問題です。あまり見慣れない問題ですが、単一業種に集中しすぎる事例として、プランテーション農業の問題を考えると解きやすくなると思います。

プランテーション農業は、天然ゴムやカカオなどの単一の作物輸出に依存して、経営を成り立たせようとしている形態ですよ。この問題点としては、気候条件によって取れ高が一定しない、国際価格の変動によって収益が安定しない、一つの農作物に頼っているのが、売り上げが下がることが一国の経済を左右してしまう、などが挙げられるでしょう。この問題点を自動車工業に応用しましょう。

①気候条件によって自動車の生産高が変動する→タイの洪水で、進出していた日本の工場の稼働率が下がり、部品供給のサプライチェーンが崩れたことで、自動車の生産台数が減少しました。でも、この流れを答案に入れることは難しい気がします。

②自動車の国際価格の変動によって収益が安定しない→円高の時代は、自動車価格が他の国から見たら高価に見えて輸出不振に陥るので、売り上

げに影響を与えてしまいます。また、アメリカのリーマンショック由来の世界同時不況、またギリシャの信用不安からのヨーロッパ金融危機などの影響で、景気の悪化した各国が日本の自動車を輸入しづらくなって、売りに影響を与えることも考えられます。これは答案に入れて良さそうです。

③自動車産業だけに頼っている豊田市の経営が不安定である→当然ですね。プランテーション農業を行っている地域も農業の多角化を進めているように、豊田市も工業の多角化を進めていると考えられます。色々な工業が発展すれば雇用条件を改善できて、豊田市で働きたい人が流入してきて、財政状況も改善できることでしょう。②と③をブレンドした解答が適切かなと思います。

ここまで読んでくださった方、お疲れ様でした。次回はどのような問題になるかわかりませんが、またお会いしましょう！